

# PHJ NEWSLETTER

ピープルズ・ホープ・ジャパン  
ニュースレター

## CONTENTS

国際保健のとびら

### 母子の継続ケアとは

#### 支援企業訪問レポート

株式会社すかいらーくホールディングス  
SDGs、できることからやっていく

#### 国内事業

東日本大震災支援  
南相馬心療カウンセリングルーム立ち上げ支援開始

#### 海外事業

## 母と子の「継続ケア」を目指して

カンボジア：段階的に母と子の支援基盤の確立へ  
ミャンマー：継続ケアの担い手育成の難しさに直面



### PHJのお知らせ掲示板

#### 第59回 PHJ 運営委員会 オブザーバー参加者募集中

日頃のPHJの海外や国内での活動をお伝えし、話し合う運営委員会を5月23日に開催します。PHJの活動の今を知りたいという方は参加を歓迎しておりますので、ご希望の方は5月10日までにinfo@ph-japan.orgへ、お名前・所属（あれば）・電話番号をお知らせください。折り返し詳しい会場の場所についてお知らせいたします。なお会場予定地はJR水道橋駅 徒歩10分の場所です。

日時：2019年 5月23日（木）  
第59回 PHJ 運営委員会 17時～19時



第58回 運営委員会

### 募金の報告

#### 「カンボジア洪水子ども支援募金」終了報告

2018年8月より発生したメコン川流域の洪水によりPHJカンボジアの事業対象地の一部でも、地域の大部分が水没し、多くの住民が避難生活を余儀なくされました。そこでPHJでは、国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国際医療協力局の調査チームの協力をえて、水の配布、重篤な急性低栄養、繰り返す下痢などの重篤な感染症兆候のある2歳未満の子どもの早期発見・搬送と、健康教育による村人の健康被害の予防啓発活動を10月に実施しました。

この活動の支援のために、2018年9月14日より募金活動を開始し、集まった募金額は41万2,127円となりました。短い期間に多大なるご支援に心より御礼申し上げます。なお、本事業において実際に使用しました経費は57万8000円となりますが、不足分に関しては自己資金にて補います。



水の配布を受けた母子

#### 「西日本豪雨災害支援募金」終了報告

西日本各地の豪雨にもなるとなると洪水や土砂崩れなどにより、多くの住民の皆様が被災されました。こうした状況を受け、PHJは災害直後より被災地で医療支援をしている全日本病院協会の活動費を支援する募金活動を2018年8月から10月末まで実施しました。集まった募金額は270万1,658円となりました。ご協力いただき誠に感謝申し上げます。集まった募金は全日本病院協会のAMAT（災害時医療支援活動班）などの活動費に充てられます。

#### 「2019PHJ チャリティカレンダー募金」の報告

PHJの2019アジアの動物カレンダーによる募金は293万4,786円(2018年10月～2019年1月末)集まりました。皆様のご協力ありがとうございました。

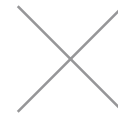
### 編集後記

SDGsの取り組みは公立の小学校でも始められているとのこと。SDGsがブームで終わらず「できることからやっていく」ことがもっと当たり前な世の中になればと思います。

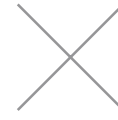




Cambodia



Myanmar



Japan

# 母と子の「継続ケア」を目指して

母子の継続ケア—お母さんとその赤ちゃんに、妊娠から出産、産後、新生児、乳幼児期に必要なケアを切れ目なく提供すること—は、母子の健康にとって必要不可欠で、PHJの活動も継続ケアを意識した活動を実施しています。しかし、保健システムが脆弱で経済状況のよくない開発途上国においては簡単なことではありません。実際の取り組みの内容とその現実について紹介します。

## カンボジア 段階的に母と子の 支援基盤の確立へ。

妊娠したら、妊婦健診を定期的に受診し、助産師などの適切な介助者のもとでお産をする、産後は産後検診と、子どもの乳児健診、予防接種を適切な時期に受けるといった日本では当たり前の「継続ケア」はカンボジアでは簡単にはできないのが現実です。

この要因は、地理的、経済的条件なども含み様々ですが、PHJは、カンボジア保健システムの脆弱性と村人の知識不足に注目し、母子の健康を改善する仕組みづくりを行ってきました。



母子保健ボランティアが妊婦さんの家庭を訪問し健康教育を行う

健康改善とそれに欠かせない保健センターの利用を促進する取り組みを行ってきました。特にPHJでは出産経験のある女性で構成された「母子保健ボランティア」を育成。彼女たちが中心となって保健啓蒙活動や、保健センタースタッフと村とのつながりの強化をすすめ、コミュニティにおける母子の健康を支援する体制を整えました。

その結果、妊婦健診や保健センターでの分娩の数も増え、村のお母さんが安心して子どもを産む環境が整ってきました。そして2019年より「お母さんの健康」から、生まれてきた「子どもの健康」に焦点を移し、「コミュニティにおける子どもの健康」を促進するための活動を開始しました。この事業の主な取り組みは、①保健センターで適切な子どもの健診や診療サービスが提供できるよう支援する、②（母子保健 / 保健ボランティアの活動を通して）保健センターとコミュニティによる子どもの健康を支えるネットワークシステムの構築、さらに、③コミュニティでの健康教育を通したお母さんや村人の子どもの健康について知識普及のための支援です。

今までの4年間で培った保健センターとコミュニティにおける連携の仕組みや、育成してきたボランティア

## ミャンマー

### 継続ケアの担い手育成の 難しさに直面

PHJでは首都ネピドーから北部のタコン群で2015年から「母子保健改善事業」を開始し、2017年よりコミュニティをベースとし、母親のケアに焦点を置いたプロジェクトを実施しています。このプロジェクトでは、①安全な分娩環境作り支援 ②医療者（特に助産師）のスキル向上支援 ③村での母子保健教育活動 ④村のボランティア育成と連携強化 ⑤政府職員との連携強化の5つの柱を主に活動を展開しています。

母子保健状況を改善するには母親のケアだけでは不十分で、産まれた後の子どもへのサポートも必要とされます。特にミャンマーでは5歳以下の子どもの死亡は生後28日以内の新生児期に多いため、いかに新生児死亡を減らすかというところが重要になります。

しかし、現状では母と子の両方をサポートするケアの担い手は、助産師と補助助産師のみで、助産師は村での一般診療や公衆衛生活動の役割も担っているため、母子保健サービス提供だけに時間を割くことはできません。また、活動地では補助助産師の高齢化も進み、補助助産師の人数も少なくなってきました。



分娩施設がない一次医療施設に分娩室

こうした現場の状況を考慮して、PHJでは母と子を継続して見るボランティアの育成を試みようとしたが、保健省認定の母子両方をサポートするボランティアが確立されていないことから断念しました。その背景として、ミャンマーの保健省の母と子を担当する課が分かれているところにあります。母子ともに精通したサービスの担い手を増員するには、両課の連携を図り、双方が良しとするボランティアの基準を作る必要がありますが、相当の時間と交渉が必要になるが見えています。

そこで、まず母親の健康に特化した活動が地域に根付くよう働きかけています。妊娠・出産・産後のケアが、家庭内から地域へ、そして一次医療施設であるサブセンターや地域保健センターで継続的に提供されるよう活動を行っています。具体的には、助産師が中心となり、母子保健教育を村や一次医療施設で毎月実施し、村人や母親の知識の向上を図ると同時に、各地域に母子保健推進員と

を活用し、保健センターを中心とした子どもの健康を支えるシステムを構築していくことを目指しています。

これらの活動を通して、お母さんが安心してお産できる環境を基盤に、子どもが健やかに成長する支援体制をつくり、コミュニティにおける母子の継続ケアの実現するための基礎体制を整えることを目指しています。さらに、この母と子の取り組みを通して、保健センターや地域の人々に母子の継続ケアの重要性が理解してもらえ、願っています。《PHJカンボジア事務所長 宮崎あすか》

### VOICE

#### 「コミュニティの声」

クボッタゴン保健センター長  
保健センターでは、受付、外来、健診部門（妊婦健診、産後検診）、予防接種部門の各担当者がいます。各担当者は自らの役割を理解し適切なサービスを提供できるように努めています。また担当以外の分野のサービスを提供する必要があるときは、スタッフ間でコミュニケーションをとって患者さんに受診を促すなど、切れ目ないケアが提供できるように心がけています。

たとえば、予防接種を受けに母親が赤ちゃんを連れてきた場合、受付担当が、保健センターへ来院理由を確認し、予防接種以外のサービス（産後の健診、家族計画サービス）が必要であれば、予防接種の前にその部門へ案内し、その後、予防接種部門で予防接種を受けて帰ってもらうようにしています。



いうボランティアを育成しています。育成されたボランティアは、妊婦が適切な時期に母子保健サービスを受けられるよう、妊婦と助産師のつなぎ役として機能しています。また、一次医療施設が老朽化や未整備のために機能していない地域では、分娩室の増築や一次医療施設の建築を行い、安全で清潔な環境下で妊婦健診、分娩、産後検診が行われるように取り組んでいます。

#### 《PHJミャンマー事務所 プログラムマネジャー 志田保子》



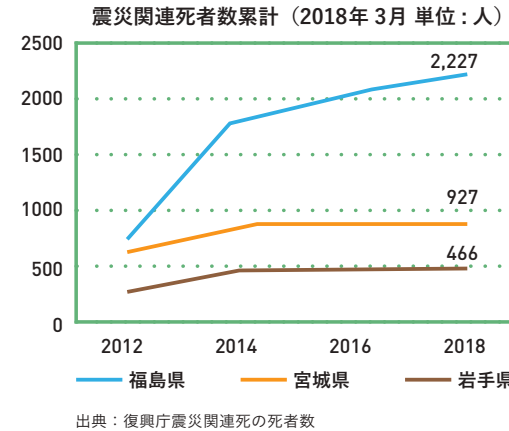
地域で活躍している母子保健推進員





前列左より米倉臨床心理士、堀医師、加藤事務局長、後列左よりPHJスタッフ横尾、桜小路、北島

PHJは福島県に関わりのある医療  
 支援事業を継続することにしました。  
 県南相馬市において東日本大震災復興  
 支援事業を継続することにしました。



東日本大震災発生から8年近くが経過し、PHJの宮城県 気仙沼、石巻、多賀城における災害医療支援は、2017年末に終了しました。一方で、大震災と原発事故により二重の被災地

南相馬 心療カウンセリングルーム立ち上げ支援開始

福島県 南相馬市

東日本大震災支援

PHJは福島県に関わりのある医療  
 支援事業を継続することにしました。  
 県南相馬市において東日本大震災復興  
 支援事業を継続することにしました。

「いまだに津波の夢を見てしまった  
 リ、フラッシュバックをしたり、震災  
 のトラウマで悩んでいる方が一定の割  
 合でいます。子どもたちは両親など大  
 人の精神状態に大きく影響されますの  
 で、被災地におけるこころのケアは重  
 要なのです。」と、話してくださいました堀  
 先生。現在、心療内科病院であるほり  
 メンタルクリニックに心療カウンセリ  
 ングルームの設立を計画しています。  
 こころの病気は、医師による治療と  
 臨床心理士による心理療法を併用する  
 と治療効果は高まるとされています。  
 PHJはこの心療カウンセリングルー  
 ムの設立支援に協力することとしまし  
 ました。

関係者から、南相馬市で「ほりメンタル  
 ルクリニック」を開いている堀有伸先  
 生をご紹介いただきました。堀先生は  
 被災地のメンタルヘルス改善に尽力し  
 たいの思いから震災後、東京から南  
 相馬へ居住地を移して医療活動をされ  
 ております。

2011/3/15 ~ 2018/12/31  
 東日本大震災寄付金の収支 (万円)

収入	現金寄付	16,715
	物品寄付 (医療・事務機)	22,255
支出	医師派遣費・医療機器調達費	11,553
	物品寄付	22,255
	輸送費・スタッフ活動費	4,467
残額	今後の支援活動費	695

※心療カウンセリングとは、臨床心理士が  
 長い時間をかけて(一回50分程度)、一人ひ  
 とりの気持ちを受容、共感、傾聴し、クラ  
 イアント(患者)の精神的負担を軽減する  
 とともに、クライアントが自分はどうした  
 らよいか、自分がやりたいことは何なの  
 かなど、自己理解を深めることにより解決  
 方法を見出すことを目指します。また、臨  
 床心理士は民間資格であり、2018年か  
 ら国家資格としての公認心理士制度が発足  
 しています。

母子の継続ケアとは

今号の先生：  
 国立国際医療研究センター 国際医療協力局医師  
 岩本あづさ

1993年より国立岡山病院(当時)小児科、2000年より国立国際医療研究センター国際医療協力局勤務。これまでにインド、バングラデシュ、ホンジュラス、ラオス、マダガスカルで小児科・小児保健分野の国際協力活動を実施。2016年より国際協力機構のカンボジア「分娩時及び新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」チーフアドバイザー。



母子保健における「継続ケア」について、小児科医として開発途上国の保健分野の支援活動に関わってこられた岩本あづさ先生にお話を伺いました。

PHJ Q1

「継続ケア」が生まれた背景について教えてください。

岩本先生 A1

「世界で毎日ジャンボジェット機が4時間ごとに墜落している。乗り合わせた250人はすべて女性だ」。1990年代にファミリーヘルスインターナショナルのMalcom Pottsが当時の妊産婦の死亡数をこう表現したことは、多くの人々に衝撃を与えました。1980年代、国際保健の分野では子どもの生存のために予防接種などいくつかの対策が次々と実施されましたが、子どもの健康と密接に関連するお母さんの生存・健康について同時に考えられてはいない状況でした。このようなメッセージを機に子どもとお母さんのケアの「継続」性が重視されるようになったのです。

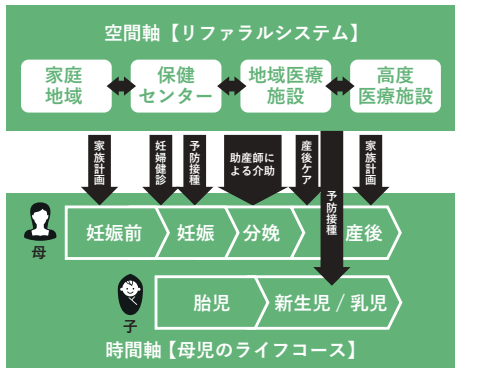


PHJ Q2

「継続ケア」とはどのようなものですか？

岩本先生 A2

「女性のライフサイクルを通して必要なサービスが継続的に担保されるための包括的なアプローチ」と定義されています。母と子の健康を守るには、特定の疾患のみに対処するのではなく、個人が成長するあらゆる段階で十分な質のサービスが提供されることが重要です。継続ケアはライフサイクルという「時間軸」と、サービスを提供する「空間軸」の双方が横断的につながることで成立します。



PHJ Q3

「継続ケア」の難しさとは

岩本先生 A3

たとえばサービスを提供する側のアクターが異なること。以前ラオスで継続ケアのプロジェクトに取り組んでいた際、産前・産後と子どもの予防接種を担う管轄が異なり、両サービスを同時に提供できない状況がありました。最終的には各課の各担当者が連れ立って出張するという解決策を得ましたが、部門横断的・効率的にサービスを提供するというのは、今なお課題です。

PHJ

人の体の「部分」ではなく、「全身」を診られるという理由から小児科医を選んだという岩本先生。まさに先生が取り組んでいる「継続ケア」にも同じような思想を感じました。岩本先生、ありがとうございました。





### 支援企業訪問

## SDGs、できることからやっていく

株式会社すかいらーくホールディングス



CEO オフィス 広報担当部長 横田 真紀 様

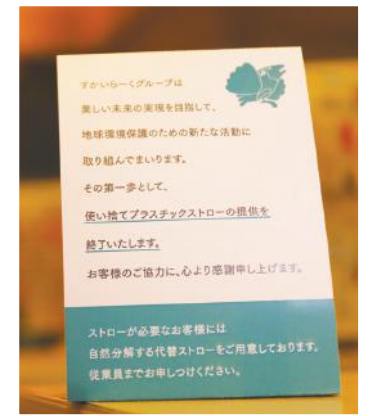


**ファ** ミレスの代名詞ともいえるガストやバーミヤンなどのフードビジネスを展開している(株)すかいらーくホールディングス。PHJの賛助会員として活動を支援して下さっているだけでなく、プラスチック製ストロー廃止をはじめ、本業の中で環境や社会に対して実に多くの取り組みを実施されています。SDGsへの一歩を踏み出した企業としての想いについて伺いました。



### 地球環境保護への一歩、プラスチック製ストロー廃止

食を通して社会に貢献するというのが創業当時の弊社の考えです。弊社は現在国内外に約3200店舗を展開し、お客様、株主・投資家の皆様、従業員、お取引先など世界中のさまざまなステークホルダーに支えられています。弊社は社会の一員として、社会全体の持続的発展に貢献するためのSDGsへの取り組みはどれも重要だと感じています。そこで多くのゴールの中から、まずできることからやっていく、ということで、廃棄物として廃棄していたプラスチック製ストロー廃止の決断にいたりしました。



### 物流や店舗での環境への負荷を低減

昨年ストローがクローズアップされましたが、そのほかにも弊社ではさまざまな取り組みをビジネスに組み込んでいます。たとえば温暖化防止に向けたCO<sup>2</sup>削減。全国10か所にあるセントラルキッチンから毎日各店舗へ食材を運ぶトラックの配送ルートの見直しをすることにより、走行距離が短縮でき、CO<sup>2</sup>削減になりました。また、食品ロスという課題に対しては食べ残しを少なくするために、単品や少量のメニューの開発をしたり、ガストではご高齢の方に配慮して60歳以上のお客様にキッズプレート(キッズ価格)を提供したりといった取り組みも行っています。そのほかにも電気や水の消費についても各店舗で低減に努めており、年々減少傾向にあります。

### 社会貢献はこれからの時代さらに求められる

社会が成熟している日本で、平成が終わり、新しい時代を迎えるいま、PHJのような活動がますます求められるようになる、と感じています。入社面接をしていますと、数多ある企業の中から選ぶとしたら社会貢献をしている企業を選びたい、と答える若い方が多いのです。若い世代に向けても、ぜひとも活発に活動を進めていっていただきたいと考えています。

—インタビューの中では、PHJの活動と共通する「地域密着」も大切にしているとお話も。例えば、他店に異動のないコミュニティマネージャーという役割もあり、地域とのつながりを深めているとのこと。すべての取り組みに企業の正直さや熱意が伝わるインタビューでした。横田様ありがとうございました。

PHJ Circle

## PHJの輪



### イベント開催報告

### 「ミャンマーの農村の暮らし、母子の健康を守る活動とは」



陣痛中のお母さんに寄り添う助産師

2018年11月30日(金)にPHJミャンマーの活動報告会を新宿NPO推進センターにて開催しました。PHJミャンマー事務所でプログラムマネージャーをしている志田保子がスピーカーとしてお話ししました。そもそもミャンマーとはどんな国?



報告会にて質問に答える志田：中央奥

いうところから、私たちが支援している農村地の人々の暮らしを説明。助産師でもある志田が、農村で遭遇した自宅出産の様子を写真を交えてリアルにお伝えし、どのような形でPHJがお母さんと子供の健康を支援する活動をしているかを具体的に説明しました。休憩をはさんで質疑応答タイムでは、ミャンマーのお菓子や紅茶を楽しみながら皆さんの質問にお答えしました。自宅出産の話は印象的だったようで、多くの方が質問されました。そのほかにもミャンマーの助産師について、母子保健推進員について、施設分娩についての質問もありました。少人数ということもあり、後半は質問から会話が生まれやかな雰囲気ですみました。参加者の方からはもう少し話がしたかった、という声もあったように強い関心を示していただくことができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

Hello!  
こんにちは!

## PHJ STAFF

### PHJ 東京事務所

#### PHJ代表退任のお知らせ

2018年6月30日に廣見公正がPHJ代表を退任し、2018年9月5日にPHJ理事を退任いたしました。2018年7月1日より神谷洋平がPHJ代表代行に就任いたしました。



東京事務所スタッフ 2018年12月 前列右、神谷代表代行

### PHJ 東京事務所

#### 管理部・募金部・企画部

#### 石井 邦夫



2018年11月よりPHJの一員となりました。前職は横河商事(株)で、主に内部統制の業務を行っておりました。また、PHJ活動の一つである「年末カレンダー募金」のお手伝いもさせて頂いておりました。そのようなご縁もあり、今後は微力ではありますがPHJの支援活動のお役に立てればと思います。参加させて頂いたことに感謝いたします。これから勉強すべきことが多くあると思いますので、皆様のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

#### 経理部

#### 町田 久之



PHJにご縁があり、昨年10月に入社した65歳の新人です。定年後には、漠然と何かボランティア活動がしたいと思っていました。事務所の方々は、親切で素晴らしい方が集まっています。私の担当は、経理(会計)です。初めての経験で、まだ十分な働きができていませんが、今後ともよろしくお願いたします。